

災害救助ロボット技術競う

災害発生時に人命救助に当たるロボットを開発し、技術やアイデアを競う「レスキューロボットコンテスト」の西日本予選が30日、岡山市で開かれる。県内で初めての予選開催で、昨年の西日本豪雨を機に災害への備えに対して意識が高まる中、注目を集めそうだ。県内からは3大学の学生チームが出場する。

(大橋孝平)

県内3大学チーム出場

をポイント制で競う。人形には揺れや衝撃を測るセンサーを内蔵しており、荒く扱うと減点。優しく救い出す技術も問われる。

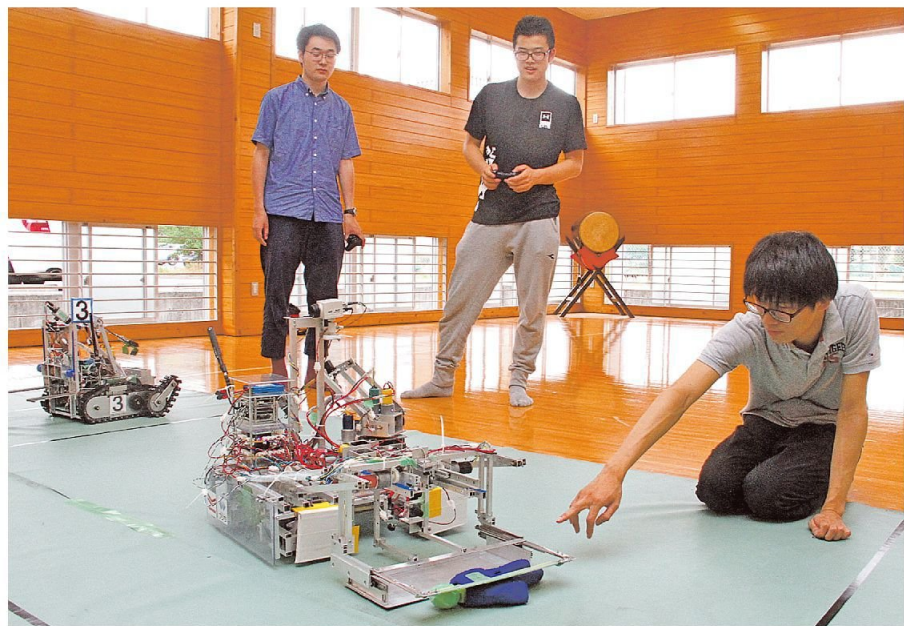
西日本予選には、17チームが参加。県内からは岡山大、県立大、岡山理科大が出場する。最近は何回参加しているという岡山大のロボット研究会は8人チームで3台のロボットを開発した。小回りが利くように昨年よりも小さく設計し、人形を運ぶ際にダメージを与えないよう、台の揺れが小さくなるよう工夫した。

コンテストは、巨大地震で建物が倒壊した市街地を6分の1サイズで再現した会場で行う。ロボットを遠隔操縦し、がれきや障害物を取り除きながら、埋もれた要救助者の人形を捜索し、救出する。救助のスピードなどがコンテストは阪神大震災の教訓を基に、大学教員らの実行委員会が2000年から毎年開催。西日本予選は神戸市、大阪府で行われてきた。初の岡山開催に実行委員会は「県内でも西日本豪雨を機に、防災、減災への関心が高まっている。コンテストを通じ、救助技術の向上や普及の大切さを伝えたい」とする。本選(8月10、11日・神戸市)は東日本予選の結果と合わせて、ポイント上位などの14チームが出場する。

本番の前に、操縦技術を磨き、不具合の洗い出しに励む。

キャプテンの工学部

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。



予選に向けて調整や操作練習に励む岡山大チーム

西日本予選の会場はイオンモール岡山(岡山市北区下石井)の5階おかやま未来ホール。午後2時~5時半。無料で自由に観覧できる。